

「行政いばらき」には、会員にとって有益な誌面作りとして、時に業務を離れ、広い視野で見聞を深める趣向も必要でしょう。わが茨城県には、新たな基軸で希望の未来を創造するような、魅力ある取組をしている事業者がたくさんいます。「いばらき新・希・塾」では、そんな事業者の活躍ぶりをご紹介していきます。堅苦しくならないよう英雄譚風に仕上げているので、気楽にお読みください。

## 日立市の子育て支援の目玉 「Hiタッチらんどハレニコ」で、夢の第一歩! 「県北の未来を担う人材を育てる!」ビジョンは大いに語れ!

株式会社共進舎

代表取締役 山形 芙美 氏

茨城県北茨城市大津町北町797番地  
学習塾・放課後児童クラブ経営

彼女との出会いは、もう6年も前になる。まだ20代だったが、初対面の私に「県北の将来を担う人材を育てなければならないんです。」と唐突に言い放った。そして、こうも宣言した。「5年後には納税番付10位以内に入ります!」と。岡副麻希似の幼さの残る無防備な笑顔と、壮大なビジョンとのアンバランスさに、「このお嬢さん、ずいぶん大きく出たな。」と苦笑させられたことをよく覚えている。

### 日立市子育て支援の目玉「ハレニコ」オープン!

6年後、そのオープンセレモニーで日立市長を始め蒼々たるお歴々に混じり、彼女が堂々と挨拶する姿を目の当たりに、感慨も一入である。



祝・ハレニコ・オープンで、挨拶

令和元年10月1日、日立市に「Hiタッチらんど・ハレニコ」という広さ約2,400㎡の超大型の屋内型子どもの遊び場が誕生した。

日立市は茨城県内でも特に人口減少に悩まされているが、その打開策の一つが子育て支援であり、子育て世代を呼び込もうという考えである。その目玉の一つが今回の「ハレニコ」で、広いスペースに業界最大手ボーネルンド社が厳選した様々な遊具が並ぶ、幼い子どもなら誰にとっても垂涎の

### Hiタッチらんど・ハレニコ

(日立市屋内型子どもの遊び場)

所在地：日立市幸町1-16-1

イトーヨーカドー日立店4階

開館時間：10:30~18:00

(90分ごと入替制)

営業日：年中無休

(1/1~1/3を除く)

対象者：12歳までの児童

使用料：子ども100円、大人200円

楽園である。その日、とある保育園の児童たちが招かれていたが、入場するやいなや、四方八方、歓声高らかに目的の遊具へと一目散に弾け飛んでいく光景に、この事業の成功を確信させられた。

そして、この施設の運営を日立市から任された指定管理者が、特定非営利活動法人子ども大学常陸であり、その理事長が山形芙美氏である。一つ、彼女のビジョンが実現に近づいた瞬間であった。

### 子育て・教育分野でのこれまでの歩み

子ども大学とは、子どもたちが持つ無限の可能性を開花させるべく、小学生から中学生の児童に大学並みの教育を施そうという取組で、日本では川越で始まり茨城県内でも3つのNPO法人が取り組むなど全国に広まっている。

彼女が理事長を務める子ども大学常陸は、県北地域の子どもたちに向けて、ロケット、政治、食文化、環境、医療等の様々な分野の最先端を教授し、彼らの見聞を広げ、創造性を育む取組を続けてきた。既成の枠組みを取り外した時の子どもの成長ぶりは、目を見張るものがある。日立市の産業祭でサツマイモの販売体験を行った際には、次々に大人顔負けのアイデアが浮かび、たった数時間で販売力を急増させていった。彼女は、この

法人の授業の企画から運営までリーダーとして携わり、若い身空で組織を統率してきた。自ら講師交渉も行い、名だたる大学の名誉教授にも直接折衝する。誰にも臆せず懐に飛び込んでいける度胸の良さが彼女の大きな強みである。

また、昨年、彼女は両親が創設した株式会社共進舎の代表取締役にも就任した。当社は、長年学習塾を経営し、県北地域にすっかり根付いていた。しかし、近年、少子化や共働き増加など教育環境が大きく様変わりをしており、先行きに不安が過ぎるようになった。一方で、新たな時代には当社の新たな使命もあると考え、彼女は新事業として、放課後児童クラブ（愛称「クスクス」）の開設に、両親の助けも借りることなく、一人で0から取り組んだ。右も左もわからないままの船出で、当初はトラブルも絶えず、苦境に立たされることもあった。それでも、中小企業診断士など専門家の意見を取り入れながら、学習塾で培った強みを活かした児童の学習をサポートできる学童保育として徐々に認知され、経営も軌道にのってきた。



子ども大学常陸での授業風景

### ビジョンを掲げることで、救世主が現われる。

まさに公言通りに八面六臂の活躍をみせる彼女だが、このように話すと、皆さんは、さぞかししっかりした切れ者を想像されたことでしょうか。残念ながら、そんなことは微塵もなく、それどころかそこそこの粗忽者とはっきりと断言できる。実のところは、その危なげな言動に、いつも周囲の大人たちは、ハラハラ、ドキドキさせられてきた。専門家も驚くような立派な事業計画書を作り上げてきたかと思うと、肝心の講師料の計上が抜けていたり、プレゼンの際パワーポイントをスライドショーに切り替えないまま操作していたこともあった。また、ハレニコの指定管理者の申請の際も、採算が合

わないと大騒ぎした。市から提示された管理費がどう考えても少なかったのだ。2人で膝を突き合わせ、ここを削ろう、こうやれば1人減らせるなど、喧々譁々ああでもないこうでもないしている時、「あっ！」彼女から声が漏れた。「この予算、半年分かもしれない。」慌てて要綱を見返すと、確かにそうだった。それを1年分と思い込んで収支計画を立てようとしていたわけで、採算が合うはずもなかった。（市の担当者の方、申し訳ございません！）前日の電話、あの涙声は何だったんだ！ とまあ、笑えるエピソードに事欠かない。そんな時、彼女は決まって右手の平でおでこを押さえる、昭和なリアクションをする。

自らも「仕事ができない。」と嘆き、落ち込んで立ち直りを繰り返し、複雑骨折な紆余曲折の中、それでも一步一步着実に夢の実現に向けて進んでいったことで、今ここに至っている。そんな彼女の姿に教えられたことは、大言壮語と揶揄されるようなことでも、大きなビジョンを掲げることが、大いなる成果につながるということである。「夢は大いに語れ！」である。夢を臆面もなく語ると、不思議とそこに導き、助けてくれる救世主が現れる。彼女の元にも数々の救いの手が差し伸べられてきた。子ども大学常陸の学長である茨城キリスト教大学名誉教授の川上美智子氏もその一人である。曰く「頼りないんだけど、何とか助けたくなっちゃう存在」だそうである。強行スケジュールの中、ハレニコも体制が整い、兎にも角にも開業の日を迎えることができたのも、川上先生の惜しめない全面バックアップのお陰であり、それがなければ、なし得なかっただろう。たとえ自分の力はそれに足りなかったとしても、高い目標を掲げれば、それを応援する人も現れ、いつしか叶うものだと、気づかされた。

もちろん、彼女自身の成長も著しい。頼りなげな雰囲気にも最初は不安を持つ父兄も、彼女の子どもたちへの真っ直ぐな接し方に徐々に安心して任せられるようになる。バイタリティあふれる行動で、いつしかスタッフや周囲の関係者にも頼られる存在になってきた。

それにしても、彼女のバイタリティには驚かされる。この小さな体のどこにそんなパワーがあるのか。仕事面だけではなく、家庭でも、家事全般、小学1年生のやんちゃ坊主の母業も、隣に住む義父母の嫁業も、すべてに手を抜かず全力であたる。ただ、本人曰く、妻業だけは疎からしい。家で1人、カップラーメンを吸る、旦那が不憫。可哀想。。

（文：吉成 俊勝）